

## 「(ハワイ大学マノア校語学研修(NICE))参加報告書」

京都大学農学部(氏名) 山田 晃大

8月2日～23日にハワイ大学が実施するNICEプログラムに参加してきました。留学前は、一緒に行く知り合いが一人しかおらず、また3週間という長い間海外で生活するなど不安な要素がたくさんありました。しかし、いざプログラムに参加してみるとそのような不安は一気に消えて、3週間があつという間に過ぎてしまいました。プログラムの詳細について言うと、まず初日に簡単なオリエンテーリングとクラス分けのリスニングテストと先生方との対面形式のスピーキングテストがありました。2日目からは、テストの出来によって適正なレベルのクラスに振り分けられ、午前中の授業を行います。午後はフリータイムで、みんなハワイ観光や、マリンスポーツなどハワイを満喫します。僕のクラスは真ん中のクラスでした。担任の先生の授業方針が「文法ミスを気にせず、とにかく英語を流暢に話そう」だったので、対面やディスカッションが授業のほとんどでした。その日のお題についてクラスの人とマンツーマンで一方的に2分間話し続けたり、TEDのトークを見て自分の意見をグループでディスカッションした後、全体に発表したりしました。また英語で臆せず外国人に話しかける練習として、教室を抜け出してハワイ大学にいる生徒に、建物の名前やハワイアンイングリッシュを聞くということもしました。この活動はほぼ毎回の授業で実施していたので、おかげでハワイの町を散策しているときに、現地の人に臆せず英語で質問することができるようになりました。毎週金曜日の授業は校外学習で、有名スポットにクラスで行き、そこでさまざまなことを英語で学びました。僕のクラスは、ビショップミュージアムとダウンタウンに行きハワイの歴史について勉強しました。毎週火曜日と木曜日にインターチェンジと言って、ハワイ大学の生徒とトークする機会が設けられていて、そこでハワイ大学の生徒と知り合うことができました。話題は、僕たちが気になっている事や、最近の日本のニュースで、時間が余ればお互いの国のサブカルチャーを教えあいました。インターチェンジに参加する学生のほとんどが日本に興味を持っていて、日本について毎回質問されて答えていました。僕は京都に住んでいるので、京都や日本の伝統文化についてよく質問されて、自分がそれらに関していかに無知であるかを思い知りました。僕は現地の学生と友達になりたいとずっと思っていたので、そこで知り合った学生と毎回のインターチェンジの後、一緒にお昼ご飯を食べに行ったりしてとても有意義な時間を過ごしました。午後の時間は、午前中と同じだけ真剣に遊んでハワイを満喫しました。僕はクラスメートと一緒に仲良く過ごしたいと思っていたので、放課後や休日にクラスの人を誘ってマリンスポーツや観光を楽しみました。クラスの仲がよくなるようにと、クラス会として晩御飯を一緒に食べる機会を設けたり、グラジュエーションの時に担任の先生へのメッセージカードとプレゼントを渡そうというイベントを企画した結果、クラスの人たちとはとても良い関係を築くことができました。今振り返ってみると、僕の留学生活はただ授業を受けているだけでは充実したものにはならなかったと思います。クラスの人、先生が周りにいて一緒に授業を受けて、遊んだからこそ充実したものになったのだと思います。今後このプログラムに参加しようと思う人は、授業を一生懸命受けることはもちろんですが、クラスの人たちと良好な関係を築くことにも精を尽くしてみてください。そうすれば、この留学はより有意義なものになると思います。最後に、この留学を支援してくださった方々全員にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。